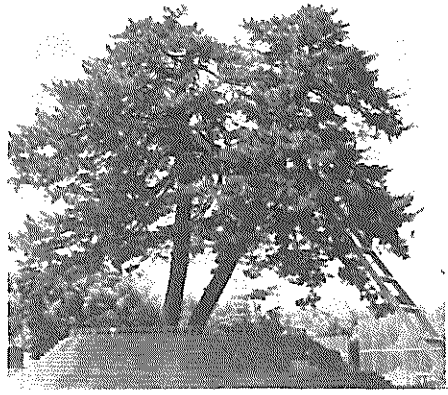


双松会会報

第15号(「双松会」通巻20号・「松高北高同窓会報」通巻第20号)

発行 松江市奥谷町164
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL ②4888・②0655
印刷 有限会社 高浜印刷所 TEL ②3000



さることとなりまして、わすか一期ではありましたが、会長に相応しいおおらかなお人柄をもって、会の運営に多大な御尽力をなされ、その御功績は誠に大きなものがあります。母校に對する御高配につきましても心から敬意を表して、次期でも心から敬意を表して、新たに兼折博新会長が会員の御望を受けて御就任になりましたことは、誠に望ましいことであり、大慶に存する次第であります。申すまでもなく、兼折新会長は、永らく母校で教鞭をお取りになり、また名校長として優れた実績をお持ちで敬慕する同窓生も多いであります。やがて創立百二十年を迎え、益々の躍進をめざす本校にとり



ご挨拶

松江北高校長 藤木 敦

優れた伝統を有する双松会を統率して来られた庄司保親前会長が、御都合により惜しまれながら御勇退なされることとなりました。わすか一期ではありましたが、会長に相応しいおおらかなお人柄をもって、会の運営に多大な御尽力をなされ、その御功績は誠に大きなものがあります。母校に對する御高配につきましても心から敬意を表して、次期でも心から敬意を表して、新たに兼折博新会長が会員の御望を受けて御就任になりましたことは、誠に望ましいことであり、大慶に存する次第であります。申すまでもなく、兼折新会長は、永らく母校で教鞭をお取りになり、また名校長として優れた実績をお持ちで敬慕する同窓生も多いであります。やがて創立百二十年を迎え、益々の躍進をめざす本校にとり



ご挨拶

会長 兼 折 博

庄司会長ご退任に伴い、この度次期双松会会長に就くようご指名を受けました。副会長も最高齢の故でもありまして、その器にあらざるを述べ固辞しましたが、お許しは得られずともあれお受けすることになりました。身の程知らぬことになりかねるところもあり、重責に耐え得るやを危惧するところもありますが、会員各位のご協力を賜わりつつ、しばらくその責務を果したいと思っております。

松江中学、松江高校、松江北高と継承されてきたわれわれの母校は、百二十年に近い歴史を重ね、隆々と発展しつつあるのは大きな喜びですが、私にとつてこの学校は、母校である以上に身近かなものになっております。生徒として五年、教師として二十年六月、この学校との縁がながかつたからです。教師の職を退いた後も、同窓会入会式に、歓迎のことばを述べさせて頂いた

ご挨拶

前会長 庄司 保親

形には必ずしもなっていないように、世代を越えた大集会はむずかしいものなにか、とも思われられることとす。ここ松江での眼前にある課題は、明後年に迫った母校創立百二十年を祝賀する記念行事であろうと思われれます。それに併せて実施される名簿の政訂発行はすでにその緒につき、同窓教員、職員の方々の手を煩わわしています。が、記念行事については未完、よき発

想があれば頂きたいと思つています。いずれにしても、双松会は風通しのよい「生きた」集団でありたいと思つています。形ばかりのもの、澁んだ水の如きものになつてはなるまいと思つています。歴史の極めて古い巨大集団ながら、近年どこやら血の通いのよくなった感もあり嬉しいことですが、会員各位のご協力を仰ぎつつ、さらに努力をすつづけたいと思つています。

松 籟 (しょうらい)

就任当初からご自身でも懸念しておられた健康上の理由で庄司会長がその役を退かれることになった。本来ならもつとご会長としてお世話頂きたかつたのであるが健康上の理由であつては止むを得ない。去る七月二日双松会役員会において役員改選があり、これまで副会長として会長を補佐してこられた兼折副会長が新会長として就任された。兼折新会長は御存じの方も多いたはなにかと思つたが、松中五十二期の御卒業で、昭和二十二年から三十六年まで母校の教員として、また昭和四十三年から五十年までは校長として、永年におたり母校の教育に尽瘁してこられた方であり、我が双松会の会長としてうつつつけの方である。そして、校長時代は当時北高の移転改築期成同盟会長であつた柴田現本会顧問とのコンビで、現在の赤山校舎への移転改築に並々ならぬ苦勞をされたとかうかうか。間もなく母校も創立百二十年を迎えるが、新会長のもと、優に三万名をこえる会員諸氏の斬新なアイデアを集めて百十五年の時に劣らぬ盛大な記念行事をやりたいものである。さて北高は県高校総体において昨年こそ総合優勝のがしたものの今年はその底力を発揮して堂々と王座を奪回した。さらに六月二十六日には、待望の通信制体育館が完成し、通信制課程の生徒たちが恩恵を受けるばかりでなく、これまで手狭な体育館で譲り合いながら活動していた全日制課程の各部もこれから思い切つて練習が出来、ますます力と技を磨き、松江北高ここにあり……と天下に覇を唱えることが出来るのではないかと期待される。◆新しいこの体育館は鉄骨造り八七五平方メートル、パレーコートがゆったりと二面とれる立派なものである。関係各方面に感謝すると共に、先輩諸氏も機会があつたら是非母校を訪れて、新しい体育館と後輩たちの活躍ぶりを見てやつて欲しい。◆今年の夏は格別暑いが、文武両道を合言葉に学習面でも大いに頑張る後輩たちは、受験の一つの大きな山場といわれる夏休みを迎え、克己精進の毎日をご

「同窓会名簿」発行についてのお知らせ

5年毎の改訂を明年にひかえ、事務局では準備を進めています。この同窓会名簿をより一層充実、正確なものとするため皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。会員の皆様は本日お届けいたします「双松」第15号に同封しております調査カードを、9月30日(金)までに御記入のうえ必ずご返送下さい。なお、購入ご予約につきましても、格段のご協力をよろしくお願ひいたします。また、ご予約と同時に代金のお支払いも同封の払込み用紙にて受け付けいたします。今回は申込まれた名簿はすべて郵送にてお手もとへお届けしますので価格5,000円は送料を含んだ金額であります。

発行予定 平成7年8月
価 格 5,000円

新会長に兼折博氏就任
平成六年度第一回役員会開催

本年度第一回双松会役員会は、去る七月二日、九十余名の出席者を得て、文字やホテルにおいて開催された。会議は庄司保親会長、藤木敦学校長の挨拶に続いて、庄司会長を議長に選出、次の協議議題を審議、全て原案通り承認された。

議題

- 一、平成五年度決算報告並びに監査報告
一、平成五年度決算報告並びに監査報告
この後、役員改選にうつり、かねて辞意を表明されていた庄司保親会長の後任に兼折博氏が選出され、庄司保親氏には引き続き双松会顧問として指導をいただくことになった。他の副会長、正・副幹事長、常任幹事は全員留任、難波靖監事の後任に古瀬誠氏を選出、兼折新会長より就任のご挨拶をいただいた後、新会長を議長として、平成六年度予算案が承認された。引き続き事務局より北高の現況報告

兼折会長を迎えて

三島勝郎

この度、双松会は兼折博氏を会長に迎えることとなった。兼折氏は、松中第五十二期の卒業生であるので、私の一年先輩にあたる。僅か一年の差であるが、当時の中学校においては、旧軍隊における初年兵と二年兵との関係のように、しごく者としごかれる者という反対の立場にあった。その顕著な例が矯風会における風紀取締りであり、応援歌の練習の場であった。

したがって在校時代は、特に言葉を使ったこともなく、交際もしたことはなかった。登校の際などに、級長の腕章をつけた颯爽たる姿を目にして、畏敬の念をもって眺め、あれが川谷さんであると知っていた程度である。それから、松高、東大へと進まれ、北高の校長になられた。一方、私の方

平成六年度双松会役員

- 顧問 柴田 午郎(44)
会長 庄司 保親(50)
副会長 兼折 博(52)
井戸内 正(61)
森本 隆(高1)
藤本 隆(高6)
藤木 敦(校長)
目次 健一(66)
松本 幹彦(高1)
景山 一功(高2)
田中 征二郎(高13)
山口 栄一(67)
古瀬 誠(高16)
栗栖 英知(教頭)
幹事長 景山 一功(高2)
副幹事長 田中 征二郎(高13)
監事 山口 栄一(67)
事務局 栗栖 英知(教頭)

は農学をかじり、農林省に奉職して各出先を転々として定年退職、帰郷、紅陵の正気にひかれた居を松江に定めることとなり、氏と接する機会が出来てきた。御令室が私の妹と女師の同期であり、万寿寺で得た墓地が隣合せであったり等々のためである。何時の間にか氏が兼折に変わっていた。松江北高創立百周年記念式典の催しに参加した際、兼折氏の式辞は若き学徒の奮起を促す気迫に満ちたものであり、感銘を深くした。氏はスポーツマンでもあったのである。松高時代は陸上競技部のマネージャーであったとか。敢闘精神の旺盛な所以である。学識は最高学府である東大で修められ、スポーツにより鍛えられた心身は、北高の校長時代に校舎の赤山移転の大事業を清々と完遂せられたのである。今日の北高の隆盛の基礎を築かれたと称しても過言ではあるまい。この度その手腕を双松会の発展に発揮せられんことを期すや、切なるものがあ

平成五年度双松会会計決算書

Table with columns: 収入, 支出, 収入総額, 支出総額, 差引残高. Includes detailed financial breakdown for the 5th year.

平成六年度双松会会計予算書

Table with columns: 収入, 支出, 収入総額, 支出総額. Includes detailed financial breakdown for the 6th year budget.

役員会報告

通信制

事務局 坂本 育穂

7月16日(土)午後1時15分
松江市黒田町 まがたま会館
出席者 木島教頭、吉野、北、坂本各校内幹事。
藤原会長あいさつ、木島教頭あいさつ及び学校現況報告。
津副会長。収入の部では、一六名の新入会員があったこと。昨年度の全国定通体育大会の選手派遣補助として6万1千円(選手数61名)を支出。また全国定通体験発表大会に2名が出場したので4千円を補助として支出した。
同監査報告(後藤監事)
会務報告。前述の定通体育大会は遺憾ながら昨年の成績は芳しからず、ソフトテニス団体戦が3位になったのが最高の成績であった。(吉野)
同様に定通体験発表会で2名が出場したのは平成2年以来的ことで、今回、文部省初等中等教育長賞を景山怜香が受賞した。(坂本)

地域同窓会が2回あったとの報告を受けているが、他にもあったと思われる。しかし事務局への報告はない。(坂本)
決算について承認。
一、平成六年度予算案(会長)
本年の全国定通体育大会は選手数66名。本年の選手は例年通り日立生が大勢を占めているが、卓球男子に玉木生が一名、同女子に大和生、一般生が各々一名、剣道に一般生が一名出場する。
6万6千円の補助をすることを決定し予算承認。
一、その他。同窓会名簿が来年発行されるにあたり、住所変更等につき積極的にお知らせ願いたい。(会長)

懇親会

双松会役員会に、通信制の役員も、もう少し人数を増やして出席して頂きたい。(坂本)
昨年は役員31名、学校側は学校長以下5名の計36名という賑やかさだった。今回は学校長も熱望しておられたにもかかわらず所用の為欠席だったのは残念だった。
出席予定の2人(徳田、屋敷両氏)が出席取り止めのため、石見からは出席者なし。
県内の遠来は那須晴雄氏(37卒)が赤来町から。
県外から森山峯也氏(43卒)

出席

杉原之栄さん(54卒)会員は石槌山に挑戦すること。
河瀬悦子さん(44卒)福祉介護士の資格を得たが、通信での勉強の仕方が非常に役に立ったとのこと。
高梨包美氏(45卒)来月アメリカへ旅行の予定。またま平木章子さん(43卒)がメンバーの一員であることを知ったとのこと。
今年度の卒業生前田俊昭氏の一本じめで無事閉会。
以上、懇親会の内容抄録。
寄付を頂いた方々
昨年度
内藤政江、門脇春子、森山峯也、奥谷寿久、村上 旭。
今年度(七月まで)
内藤政江、柏井日出子、森山峯也。
なお、積立金は5年度までで、20万5千円になっている。
酷暑の折、同窓生の皆様のご自愛をお祈りするとともに、今後とも変わらぬご協力、ご支援を切にお願いいたします。

平成五年度通信制同窓会決算書

Table with columns: 収入, 支出, 収入総額, 支出総額. Includes detailed financial breakdown for the 5th year communication制 alumni association.

平成六年度通信制同窓会予算書

Table with columns: 収入, 支出, 収入総額, 支出総額. Includes detailed financial breakdown for the 6th year communication制 alumni association budget.

今春の進学状況

今春の卒業生の大学進学状況をまとめました。数年前から、年々受験人口が減少しているにもかかわらず、今春のセンター試験は、出願者数五十三万と、過去最高の数字を記録しました。特に国公立大学においては、志願者が大きく増加しました。長びく景気の低迷が大きな要因だといわれています。これに加えて、募集人員が前期・A日程に集中して、実質一校受験の傾向が更に強まってきました。このような状況の下にありながら、本校の生徒諸君はよく健闘してくれました。国公立大学合格者が三〇〇名、大台にのり、北高の面目をほどこしました。難関校といわれる大学にも例年を上回るほどの合格者を出しました。東京大学八名、京都大学六名、神戸大学十名などをはじめとして、地元島根立大学の合格者は過去最高の四八〇名に達しました。早稲田大学三十名、慶応大学十五名、関関同立を合わせて五十名をはじめとして、難関校に多数合格しました。やや弱だといわれた学年でしたが、最後には例年並みの成績を残してくれました。これには、生徒諸君の努力はもとよりですが、それに加えて、言葉にあらわさない、何か不思議な力が働いているのを感じます。それを伝統といえるでしょうか。総体も終つてみれば男女総合優勝を勝ちとつていました。正直なところ、私たちの危惧をみごとに打ちくぐり、ここにも百二十年の重みを感じました。三年生の諸君はこの優勝を跳躍台にして大きく飛躍してくれ、センター試験の出願者が今春は、更に増加すると思われ、国公立大学は、B日程の学校がほとんどなくなるため、受験の機会が減少し、厳しい状況が続くようです。現在、学校では全校をあげて夏季補習中です。暑さの中でそれぞれが星をみつけて汗を流していきましょう。これからも先達諸君のご支援をいただきますようお願いいたします。

平成六年度県高校総体で輝く総合優勝

通算十度目の偉業達成

第32回島根県高等学校総合体育大会は、六月三日から六日までの四日間、県下各地の会場で一斉に開催されました。本校からは男子十四部一八〇名、女子十三部一二二名の選手が出場しました。結果は、予想を上回り二位大社高校に十九点の大差をつけ優勝をすることができました。三十一年度優勝の弓道部女子、二十九年度優勝の陸上競技部女子、五連覇の滑艇部女子、二年振り優勝の水泳部女子を初めとし、どの部もよく頑張りました。総合優勝とい名にふさわしい内容でした。以下主な成績をあげておきます。

Table listing sports results for various categories like 男子総合, 女子総合, 男子個人, etc., with names and ranks.

平成5年度合格状況学校種別(平成6年4月集計)

Table showing admission statistics for national/public/private universities from March 3 to March 6, including counts for current and former students.

通信制体育館 竣工す

昭和三十年四月、松江工業高校より通信制課程が本校に移管されて以来、今日まで一つの体育館で、全日制・通信制とで共用してきましたが、この度立派な体育館が完成いたしました。六月二十六日(日)島根県教育委員



通信制体育館の竣工した様子

東京双松会 第38回総会

常任幹事 雲嶋 幸夫

東京双松会第三十八回総会は昨年十一月十三日(土)、日本倶楽部(丸の内国際ビル八階)において常任幹事石倉義朗氏の司会により午後一時三十分より開催された。当日は晴天に恵まれ、出足よく、昼過ぎから会員多数が続々とつめかけた。まず全員起立し、物故会員二名(昭和十一年卒業、立石英男氏、昭和二十九年卒業、園山俊二氏)に心からなる黙禱を捧げた。宇山会長の開会の挨拶についで母

津々浦々

幹事長 足立 三樹夫 (北高16期)

去る三月二十日、広瀬の富田山荘において平成五年度の「東京双松会」総会を行った。この会は、安来市・能義郡(広瀬町・伯太町)に在住している松中・松高・北高の卒業生を会員とし、年一回総会を開催しています。昭和六十三年に名簿を作成した時の会員数が約六百名、近々、名簿を作るかと考えているが、松中に増えているのか楽しみではある。松中六十四期の玉木国寿先生に会長として会の取りまとめをお願いしています。

昨年まで長らく幹事長としてお世話いただいた上田数夫先輩(松中十六期)が、体調がもうひとつつかないが、体調がもうひとつつかないが、世話をうかがうという事で、私が幹事長をひきついで最初の総会というわけです。不慣れた新役員達です。今年はお流れにして来年度にしようかという話も出ましたが、会長の「人数

八木秀次は先見性に富んだ科学者で、日本では認められないでいる人材を発掘し、育成するのが大変うまい人であった。湯川秀樹をスカウトして阪大講師にし、叱咤激励し、中間子論を書かせた人でもある。松尾博志氏は昭和四十年中大法学部政治学科卒業。同年徳間書店に入社。四十九年退社後、執筆生活に入り、近著に「電子立国日本を育てた男 八木秀次と独創者たち」など約三十冊の著書がある。これまであまり描かれなかった科学者間の人間臭い葛藤を通しての、日本人の独創性についてお話をしていた。木佐安允副会長の会計報告が終了し、いよいよ開宴。各テーブル上には栗栖先生が持参された野焼の大皿が並び、久々に日本海のお味の味を賞味させていただいた。神田「出雲そば」も出店し、割りそばにも舌鼓。終宴までもりあがった。終宴近く、各校校歌の合唱が先生方を囲み各卒業生ことにはじまり、学生時代の青春をとりもどし、めでたく閉会した。

各期だより

松中五三会の集い

三島勝郎

我々昭和八年の松江中学卒業生は、去る六月五日に卒生記念の同窓会を開きました。

本年は、大方の者が七十九歳、数え年八十歳になるので、お互いの長寿を祝し、更に健康で長生きすることを祈念する大会として盛大に催すこととした。

五十四期卒業六十周年

山田正典

先般松中卒業六十周年記念集會を盛會裡に終了、大役を果し一息していま

老人の回顧話、若い方には興味ないでしょうが、六十余年前、県下各地より、箆を負い青雲を志した紅顔のエリート少年(入試で3分の1は他校、中学浪人も今日八十路の坂に達し、卒業時の3分の2は他界し、住居・生死不明者を除くと、六十六名の生存(今年五月末、その内3分の2は成(老)人病、残り3分の1が小康を保ち同窓会に出席する現況です。

六七名の生存者となつてゐる。それ等も入院中の者や、寝たきり等の障害者が多く、用務のため一人も若干あり、最終的な出席者は一五名となつた。

一名の参加者となつた。同窓会は先ず、儀式により物故者の追悼供養のしめやかな読経に始まり、亡き同窓を偲んだ。遺族の方々の感懐はまた一入のものがあったようである。

昭和八年頃、五二五事件の発生をみる。昭和八年頃、五二五事件の発生をみる。昭和八年頃、五二五事件の発生をみる。



平成六年卒生記念松中五三会

宴の後、欠席者の状態を考え、また出席者の体調を目的に、この会を何時迄も続けたいとは念願しつつも、果して?との暗影がよぎり、一期一会の感を深くした同窓会であった。

間の後半はそれに専念し、全員がかなりの上達した。戦後二十二年頃、戦域親善の排球大会に各職場より中堅選手として、若者に混じり出場、コートに挟んで旧友と顔を合わせ苦笑した。またラグビー、サッカーも習ったが、未熟とルーラーに疎く、唯苦しいスポーツ。向う

松高二期還暦記念 同窓会をふりかえつて 私達の多くは終戦の翌年昭和二十一年に旧制松江中学校と県立松江高等女学校の最後の入学生として、入学し、松江高校併設松江中学校の三期卒業生となつた戦後の動乱と学制改革の洗礼を直接に受けた激動の時代に青春を送った仲間達であります。...

に還暦を迎える歳になり、昨年十月二十九日、還暦記念同窓会を、ホテル一畑で開催いたしました。幸いにも百人を越す仲間が集まって、夕暮しく歓談致しました。最初に三十八名の物故者に黙祷を捧げ、幹事の歓迎の挨拶、参會者を代表して一番の遠来者による挨拶の後、乾杯の音頭で開宴しました。

三八会(松高十四期卒) 三十周年記念同窓会 長週和助 昨年八月十四日ホテル一畑において三八会(松高十四期)昭和三十八年卒業三十周年記念同窓会を盛大に開催しました。

三八会(松高十四期卒) 三十周年記念同窓会 長週和助 昨年八月十四日ホテル一畑において三八会(松高十四期)昭和三十八年卒業三十周年記念同窓会を盛大に開催しました。

学園祭のご案内

統一テーマ“嚆矢”

激変する政治・社会。“世界の人たる誇りに立たん”北高生。新しい価値観を求めて、今何を考えいかに生きるべきか。この学園祭を、その始まりを告げる矢としたい。

事務局だより

平成五年度末人事異動にともない、事務局(校内幹事)の転出入がございましたのでお知らせします。

島根県立松江北高等学校 第14期 卒業30周年記念 編集後記 昨年は冷夏・長雨、その結果としての大凶作。今年も連日の猛暑、真夏日、熱帯夜、水不足。天が人間共を試している感さえします。この会報が手もとに届く頃も、未だ残暑酷しい毎日かも知れません。